

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173100298		
法人名	株式会社 SORA		
事業所名	グループホーム ファミリー(ユニット1)		
所在地	上川郡東川町北町5丁目4番10号		
自己評価作成日	令和 5年 1月 27日	評価結果市町村受理日	令和5年3月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。
基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/U1/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0173100298-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和5年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度から株式会社 SORA と社名が変わりました。運営理念もSORAから取り笑顔・開かれた心・敬意・感謝と改変され、新たな気持ちで職員一丸となって介護に慢心いたします。
グループホーム ファミリーは大雪山が一望出来き、旭川駅まで車で20分、旭川空港まで車で30分の場所に介護付き有料老人ホーム2棟隣接しグループホームは2ユニットあります。
東川町は自然な青く澄んだ空と四季を感じる事が出来き、春には窓からも桜が見られ、夏には敷地内の遊歩道を散歩しながら周りの景色を鑑賞し、家庭菜園の野菜を収穫したり楽しんでいます。
行事としてはキトウシ公園の桜を見に行ったり、美瑛・上富良野・天人峡温泉へ花見や紅葉を見に出掛け、気分転換して頂きます。
野外で焼肉をしたり盆踊り等も楽しみの一つですコロナ禍で面会も難しい時期もありましたが、短い時間でもご家族様に来て元氣を出して頂けるようコロナ対策をしております。
今後は職員一同、入居者様に喜んで頂ける質の高い介護サービスを提供出来る様に施設内研修を行っていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームファミリーは、昨年運営会社が変更になり、新たな体制で運営を行っています。利用者や職員はそのままに、コロナ禍の自粛生活に向き合いつつ、さらなるサービスの向上に歩みを進めています。東川町のほぼ中心部にあり、旭川駅まで車で20分と至便で、かつ自然豊かな環境は、利用者の笑顔と心身の活性化、生活の潤いに生かされています。敷地内の散策や紅葉狩りなどのドライブ、戸外活動も徐々に取り入れ、焼肉会や盆踊りも開催しています。重度化も進む中、日々変化する利用者の日常は、職員の温かな観察力と洞察により、「今」の利用者が望む過ごし方を見出し、具現化しやすい介護計画で支えています。利用者のみならず家族の心情も受けとめ、通信や個別便りを送付し、特に健康状況に留意し欠かさず報告しています。また、研修面では集合研修に代えて、各職員が資料確認と学習報告書を提出、さらに自身の年間目標に対しその達成に向け介護計画2票を活用し記載するなど独自の研修スタイルを工夫し、停滞しないスキルアップに努めています。職員は、今まで培ってきた認知症ケアに加え新たな理念を胸に、利用者の生活がより良いものになるよう再びのスタートに意欲的に取り組んでいます。

項 目		取組の成果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

合同会社 n

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新事業の為、新しい理念を全職員に共有して貰うために、理念を携帯させ、いつでも確認できるようにしている。	新法人名からなる4つの理念を掲げています。ユニット内の掲示と、全職員が理念カードを携帯することで早期の共有を図っています。特に「敬意、感謝」は7割以上の達成目標を目指し、サービスの実践に取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は積極的に地域の方々の行事に参加していたが新型コロナの影響で自粛している。	現在、地域交流は相互に自粛しており、地域の諸種情報は法人事務部から得ています。昨夏は、隣接の系列有料ホームの利用者と盆踊り等で行事交流を果たしています。今後は町内のみならず、広域市町村の認知症高齢者の支援も視野に入れています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナの影響で現在は受け入れてはいないが、いつでも再開出来る様に整えている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナで運営推進会議は開催出来ないが委員会のメンバーにはグループホームでの生活や報告は3ヶ月おきに書類を送っている	今年度は、地域代表や民生委員、町担当課長、全家族に、最終版も含め4回の書面報告とし配布予定です。利用者状況や活動、運営面の定例報告と、外部評価内容やコロナ感染症状況などの懸案事項をまとめ、さらに写真掲載の通信を添付しています。	次年度は、年6回参集での会議開催の意向を示しています。報告事項に対する推進委員や家族との意見交換を通し、より良い運営やサービスに生かす取り組みを期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナの為、交流は控えているが、新しい情報の共有は出来ている。	日頃から行政の各関係部署と良好関係を築いています。コロナ感染症情報や対応に関しては迅速な支援を受けています。事故報告は持参し、介護認定更新や生活保護関連でも協働しています。感染症対策緩和を見据え、行政主催の研修会に参加を予定しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会等でテーマに沿って、職員間で話し合っている。現在も拘束を行っておらず、常に外に出て行ける環境を作り希望に応じ散歩やドライブを実施している。	定期的に虐待防止及び身体拘束適正化委員会を実施しています。集合での研修に代え、資料確認と記述方式で職員個々の一層の認識強化を図り、拘束や抑圧、抑制のないケアに取り組んでいます。日中は施錠せず、帰宅願望の思いを傾聴したり、不意の外出は本人に歩調を合わせ同行しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会で議題にも取り上げ職員間でどのようなことが虐待なのか周知し、防犯に努めている。又個々の意見や考え方を集約し虐待防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで制度の理解、対象者の把握をし、必要時は提供できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を事前に渡し、一度読んでいただいてから説明を行い、疑問点をクリアにし十分理解いただいた上で締結している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の心配事や入居者の状況は伝え不安が軽減出来る様努めています。他市町村のコロナ感染状況見ながらリモートやアクリルパーテーションを使用して面会を頂いている。マスク着用や換気も随時行っている。	感染状況により、現状で可能な面会を設定しています。家族の要望等は面会時だけでなく電話連絡でも聞き取り、速やかな対応に努めています。毎月通信と個別の便りで利用者の生活状況や今後の予定などを報せています。特にコロナ禍での家族の心配に留意し、健康面の丁寧な報告を心掛けています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員には年に2回自己評価表を提出し人事考課に反映している。職員の悩みや意見は管理者が対応している。	事業所内の意思疎通が良く、職員の意見や提案は話し合い、業務改善や適切なケアに生かしています。各職員による年間目標の設定と半年毎の自己評価表の提出で業務へのモチベーションを支え、また外国人職員とも互いに学び合う雰囲気を作られています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新型コロナの影響で外部研修の機会は少ないがDVDや資料を配布し向上出来る様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナで研修は少ないがリモート研修等は積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域の同業者と施設の研修などで交流を図り情報交換を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	多くの関わりを持ち、コミュニケーションを図る。得た情報は職員間で共有し、ニーズにあった介助ができるよう努める。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの不安や要望を伺い、納得した介助ができるよう努め、安心していただけるような関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や見学の際、どんな支援を必要としているのかを見極め、他のサービスを含めどんな支援が考えられるのか、お話しさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いろいろな場面で入居者と協力し業務を行っている。一緒に歌番組を見たり、会話をしたり、笑ったり、楽しんだりする機会を作っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナで来訪に制限を行っているが、電話や玄関で入居者の生活状況を伝えている。新型コロナの感染状況で面会を短時間実施することもある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	直接の面会は制限しているが、ガラス越しで話をしている。	自由な交流に制限はありますが、感染症対策を講じながら、家族以外でも友人や宗教関係者などの面会や電話、手紙を取り次いでいます。訪問の理・美容師とは顔馴染みであり、利用者にとって安心できる関係です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がかかわり、良好な関係が築けるよう職員が間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了となり自宅に戻られた方はいないが、他の施設や病院に入られた場合電話にて生活状況を聞いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の生活歴を踏まえ、本人の思いや希望が把握できるよう本人とのコミュニケーションを図っている。	日常的な聞き取りのほか、言葉で伝えられない場合も多く、家族情報も併せて、観察・推察を重ねて本意を汲み取り、どのように希望を実現していくか検討しています。好きだろうと察した誕生日プレゼントは、日々の生活に本人の笑顔を取り戻す契機になっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の話を聞くことはもちろんのこと、家族のコミュニケーションも密に行い、情報の掘り起こしを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	睡眠や排泄パターン、心身状態などを日々観察し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントにて情報収集し、本人・家族の希望や意向、また医師からの助言を反映させている。課題に関しては職員間で話し合い、提案なども取り入れ介護計画を作成している。	介護計画は6ヵ月ごとや利用者の状況に応じて見直しています。本人や家族の意向に基づく計画案を第一義的にし、医療者の助言を受け、全職員の気づきを集約して立案しています。計画の実践は日々の記録で確認し、具体的なモニタリングで現状に即した計画作成に繋がっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施記録に特記欄を設け記入できるようにしており、職員間の情報共有に利用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナで外出の機会は減っているが、少人数での外出や散歩を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の社会資源を把握し、安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関が定期的に訪問診療を行う他、医療連携で毎週看護師が健康チェックや急な体調不良に対応している。その他に病院に関しても初期の病変で受診出来る様にしている。	本人・家族の意向に沿い、現在は全員が協力病院の訪問診療を利用しています。訪問看護師も同病院から受け、気になる症状は適宜相談できる体制です。利用者が安心して医療が受けられるよう外来受診は管理者などが対応し、医療面の情報は家族と共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携先の訪問看護師が訪問した際、1週間の様子や体調不良の相談を行い助言を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に制限があるので電話にて状況を確認している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向があれば可能な限りホームで対応している。かかりつけ医や家族、入居者の意向がでた段階で話し合いを行い、慎重に対応している。	事業所で看取りをしない事も含め、利用契約時に指針をもとに説明、同意を得ています。家族には日頃から本人の健康状況を伝え、状態の変化に応じて話し合いの場を持っています。事業所での生活が困難になった場合は、病院への移行支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で行われた救命訓練に参加し応急手当を学んでいる。また急変時には対応方法をファイルにしておき、それを参考に動けるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には緊急連絡網で全職員に連絡し、駆けつけてもらうことにしている。	5月と11月に夜間を想定し、防災設備会社立会の下、利用者参加の避難誘導、消火器使用訓練を実施しています。また、洪水対策での訓練では、垂直移動時の課題を明確にしています。BCP(事業継続計画)の策定に着手しています。	近年様々な災害が多発していることから、当地で考えられる停電や地震、水害などの自然災害について、明らかになった課題解決も含めて対応策の検討を行い、実践、またはシミュレーションの取り組みが期待されます。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のプライバシーや恥辱身に配慮した言葉かけや対応を行っている。	職員は、認知症の理解を深め、接遇研修では自己評価チェックリストでケアを振り返っています。気になる対応があれば職員同士の注意や管理者の指導があります。申し送り時は居室番号で行い、利用者の個人情報に関する管理も適切に行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でどちらか選んで頂く場面を設定したり、聞かれた質問で自己決定出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人一人の体調、希望に合わせて外出支援や余暇の時間を利用出来る様に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んで頂いたり、整容の声掛けなどの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に利用者の希望を取り入れたり、本人の出来る範囲で下膳等の支援を行っている。食事中も見守りしながら楽しく安全に接出来る様支援している。	重度化により、利用者の手伝いは減少していますが、調理レクでは利用者と一緒に作り、出前寿司や手作りケーキ、農園の野菜やサクランボも楽しんでいます。個々の自立を見極め、食事形態の変更や食べやすい器、介助法を検討し、美味しく食事が摂れる事を大切にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家族的ながらもバランスの取れた食事を提供出来る様にしている。食事の量も本人と相談しながら提供している。摂取量の確認し記録を残し、水分補給は時間決めて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の力や義歯の有無に応じたケアを行っている。歯磨き後も磨き残しが無いか確認している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを考慮してトイレでの排泄が出来る様に誘導や声掛けを行っている。	全員の排泄状況を理解し、時間や本人のサインを逃さずトイレに誘導しています。ベッド上や夜間のポータブルトイレの使用も随時対応しています。尿量により昼・夜で衛生用品を変更したり、排便対策を講じるなど、失敗や不快感、苦痛が軽減できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の入居者は医療と連携を図り排便コントロールが出来るよう心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	週2回入浴支援を行っている。入浴時間の長さや時間帯においては希望に沿える様にしている。	週2回程、午前の時間帯で入浴を支援し、拒む場合は無理強いせず、希望があれば同性介助も対応が可能です。利用者が心地よく感じる介助を行ない、脱衣から入浴、着衣までを同じ職員が対応することで、安心してリラックスできる入浴環境を整えています。入浴時は楽し気なお喋りが聞ける時間になっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣や就寝時間を最大限優先し、自宅に居た時変わらず安心して休める事が出来る様、また清潔な寝具で休んで頂ける世に交換を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用している薬は薬表ですぐに確認できるようにしている。新たに処方になった場合は効果や副作用などミーティング等で伝えあい、変化があった時は全職員で周知する。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を踏まえ、歌謡曲や時代劇を鑑賞したり職員との会話で気分転換が出来る様に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や天候を見ながら外に出掛けられる様にしている。外出行事は希望や嗜好に沿いながら実施している。	買い物は職員が代行していますが、コロナ禍でも閉じ籠らず、感染症対策を徹底しながら戸外活動に取り組んでいます。敷地内の散歩や農園を見たり、数名ずつで景勝地の桜や紅葉ドライブ、屋外行事も徐々に取り入れ、盆踊りや焼肉会を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、現金は居室に持ち込まず事業所ごとに個別でお預かりしている。希望があればその都度購入し出納帳にて家族に確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って代行して家族の声が聞ける様に支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースの壁には行事の写真を提示したり、今が何月何日なのか分かりやすく、手作りのカレンダーを掲示している。食事する場所と休憩出来る場所を分けて、居心地の良く過ごして頂ける様に努めている。	皆が集うリビングは、音や光など刺激に注意し温・湿度や換気なども随時調整しています。分かりやすいカレンダー、トイレの引き戸にカーテンを掛けるなど、利用者目線で暮らしやすく尊厳への配慮が窺えます。年中行事に合わせた装飾で季節感を演出し、年初めは皆で制作したまゆ玉や利用者の書初めを掲示しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	希望に沿い、思い思いの場所でテレビや新聞などを見て過ごせる様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真を飾ったり、自宅で使っていた家具を持ち込んで頂いたり、自宅に居た時の様な雰囲気作りを大切にしている。	介護用ベッドやオープンクローゼットを備えた居室には、テレビや小さな仏壇、家族写真など大切なものが持参されています。趣味の編み物道具等も手元に置き、入居前の生活が保たれるようにしています。写真付きの誕生日色紙が年順に掲示され、利用者との話題作りに生かされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者個々の力を活かし、出来るだけ自立した生活が出来る様に支援している。		